



No.43

UT University Forests News

# 科学の森ニュース

Sep 10, 2008

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

## 小宮山総長が北海道演習林を視察

### 北海道演習林

2008年7月1日から2日にかけて、小宮山総長、浅島理事・副学長が北海道演習林を視察されました。生源寺研究科長、下村演習林長、梶北海道演習林長の案内で苗畑を視察し、来演記念に植樹をされました。その後、林内を視察し、仙人峡の湧水地では湧き水で喉の渇きをいやしました。麓郷森林資料館の展示をご覧になり帰京されました。

北海道演習林の広大な森林で行われている様々な試験研究や、森林生態系の保全に配慮した天然林施業実験についての概要説明や林内視察をとおして、環境保全・地球温暖化抑制における森林の役割の重要性をあらためて感じておられたようです。



林内採取種子での苗木生産を視察する小宮山総長

「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学科学の森教育研究センター（演習林）のホームページからダウンロードすることができます。（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>）

## 東大基金パーティーでの企画展示

### 広報情報室

2008年6月6日、安田講堂で「東京大学基金総長主催パーティー」（個人寄付者約280名招待）が開かれ、ブースの展示に参加しました。

「演習林に生息する多様な生物と森林の二酸化炭素吸収効果」をテーマに、スギ大径木の円板（千葉演習林）、カモシカ等の剥製（秩父演習林）、演習林の二酸化炭素吸収効果のパネル展示等を行いました。7月16日にはホテルオークラ東京で「東京大学基金総長主催懇談会」（法人寄附148社、約230名招待）があり、こちらにも参加しました。学内外の多くの方々に演習林の取り組みについて興味を持って頂けました。



安田講堂では動物の剥製やスギの円板が展示されました

## 温室特別公開

### 樹芸研究所

樹芸研究所では、2008年6月17日に温室特別公開を行い、地元の方を中心に51名が温室を見学に訪れました。

温室では、熱帯・亜熱帯の有用な植物約350種を栽培・保存・展示して研究や実習に利用しています。常時一般に公開されていますが、特別公開時には職員による温室ガイドが行なわれます。今回は計7回のガイドが行なわれました。

見学者の皆さんは、カカオやミラクルフルーツなどの珍しい花が咲く中、食品や薬などの原材料として日頃の生活と関わりのある熱帯樹木の利用の話や研究について耳を傾けていました。

今後も月に一度、継続的に開催していく予定です。（次回の特別公開は10月となります。）

## 本郷けやき保育園にウラジロモミを提供

### 秩父演習林・広報情報室

本郷けやき保育園の開園式が2008年5月7日に行なわれるのに合わせて、秩父演習林よりウラジロモミを寄贈しました。ウラジロモミは総長らの手により保育園の入口前に記念植樹されました。園児達がクリスマスの飾り付けをできるようにとの希望から、この樹種に決められました。保育園の看板も、演習林のケヤキを使用しております。



植樹されたウラジロモミと一緒に

## 本の紹介

### 愛知演習林 ブックレット②

## 森林環境税は森を救えるか

—第20回日本の森と自然を守る全国集会より—

税込価格 1,500 円  
220 ページ A5 版

近年“森林環境税”を導入する自治体が増えておりますが、本書は「第20回日本の森と自然を守る全国集会」で熱く交わされた“森林環境税”についての議論をとりまとめたものです。詳しくは愛知演習林 aien@uf.a.u-tokyo.ac.jp まで。



ワサビ沢展示室は、秩父演習林の事務所より国道 140 号線を山梨方面へ向かう、雁坂トンネル手前の豆焼橋近くにある「彩甲斐街道 出会いの丘」休憩室 2 階に開設されています。

秩父演習林とその研究活動や作業内容を多くの方々に知っていただくことを目的に、ニホンカモシカやツキノワグマなどの剥製、シカの角標本、材鑑標本、昆虫標本などの実物と、写真やイラストを多く使ったパネルによって、解りやすく興味を持ってもらえるような展示を行っています。

また、年に 2 回の展示内容の衣替えを行い、秋には特別開室を行っています。特別開室は紅葉シーズンと重なることもあり、毎年多くの方々に御利用いただいています。

現在、ワサビ沢展示館の剥製は、9 月 23 日まで本学の駒場博物館において開催されている『進化学の世界ーダーウィンから最先端の研究までー』に貸し出されています。ツキノワグマもニホンカモシカも個体数が増えてきているとはいえ、まだまだ姿を見ることの少ない動物です。機会のある方はぜひご覧ください。



ワサビ沢展示室外観（1 階は管理人室・休憩室です）



ツキノワグマ剥製などの展示の様子

### 演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください、各演習林にお問い合わせ下さい。

#### 5月

- 3～6 日 全学体験ゼミ「里山の森林に触れる」(愛知)
- 6 日 休日公開(田無)
- 10 日 全学体験ゼミ「都市の緑の生き物に親しむ」(田無)
- 10～11 日 全学体験ゼミ「危険生物の知識」(千葉)
- 11 日 公開講座「鳥の巣箱作りと観察」③(愛知)
- 14 日 公開講座「春の散策」(樹芸)
- 23 日 利用者研究集会(愛知)
- 24 日 大滝げんきプラザ共催事業『森林で遊ぼう!「新緑のトロコ軌道」』(秩父)
- 25 日 とよた森林学校「森林セミナー」(愛知)
- 25 日 子ども樹木博士/休日公開(田無)

#### 6月

- 7～8 日 全学体験ゼミ「危険生物の知識」(秩父)
- 7～8 日 総合科目「青の革命と緑のダム」(愛知)
- 8 日 市民公開セミナー「樹海めぐり」(北海道)
- 14～15 日 総合科目「森林ー人間系の科学」(千葉・秩父・富士・樹芸)
- 18～19 日 第 13 回利用者説明会(千葉)
- 28 日 全学体験ゼミ「都市の緑の生き物に親しむ」(田無)

#### 7月

- 3 日 田無試験地利用者交流会(田無)
- 13 日 公開講座「子ども樹木博士」(樹芸)
- 21 日 大籠山ハイキング登山会(北海道)
- 25 日 公開講座「水辺の生き物を探そう」(愛知)
- 29～31 日 高校生のための森と海のゼミナール(千葉)

#### 8月

- 1～4 日 全学体験ゼミ「夏版伊豆に学ぶ」(樹芸)
- 9 日 夏の森林教室(千葉)
- 24 日 公開講座「鳥の巣箱づくりと観察」(愛知)

#### 9月

- 8～11 日 全学体験ゼミ(北海道・富士)
- 9～12 日 全学体験ゼミ(千葉・樹芸)
- 9～12 日 関東甲信越演習林技術職員研修「森と安全を考える」(秩父)
- 24～27 日 全学体験ゼミ「徹底検証『秩父』」(秩父)
- 27～28 日 子ども自然塾(北海道)
- 28 日 公開講座「秩父演習林のきのこ」(秩父)

#### 10月

- 31 日 栃本地区の自由見学日(秩父)
- 下旬 ワサビ沢展示室特別開室(秩父)

#### 11月

- 1 日 栃本地区の自由見学日(秩父)
- 6～7 日 平成 20 年度技術職員等試験研究・研修会議(千葉)
- 8 日 野鳥の巣箱をかけよう(千葉)
- 22, 23, 24, 29, 30 日 秋の一般公開(千葉)
- 29 日 総合科目「森を測る」(富士)
- 未定 ワサビ沢展示室特別開室(秩父)

#### 12月

- 14 日 影森祭(秩父)
- 上旬 公開講座「鳥の巣箱を作ろう!」(樹芸)
- 10 月より各月中旬 温室特別公開日(樹芸)

## カラマツ

マツ科 カラマツ属

学名： *Larix kaempferi* (Lamb.) Carrière

別名：フジマツ ラクヨウショウ

### 富士演習林

富士山に多く自生することから「フジマツ」とも呼ばれるカラマツ。富士演習林には古いもので大正 2～3 年に植栽された林（林齢 95 年）があります。昔から天然木が材として珍重されてきたカラマツは、戦後の寒冷地における拡大造林で重要樹種とされ、山梨県でも多く植栽されました。しかし、高齢林は多くなく貴重です。また、日本に自生する針葉樹の中では唯一の落葉樹で、春の柔らかな新緑や秋の黄葉が大変美しいです。富士演習林では、季節ごとの景観を一層楽しんでいただけるよう、下層にカエデ類を多く残すように手入れをしています。



国道 138 号線沿いのカラマツの黄葉（下層はカエデ類）



## 森林の複層的所有関係

さいとうはるお  
秩父演習林 齋藤暖生

登記簿上の土地所有者がその土地に対して絶対的な権利を持つという秩序は明治時代以来のもので、それ以前はというと、現代の私たちが認識するような土地所有の概念はなかったと言われていました。例えば、「A の山」があっても、それは「A だけのものではない」というような感覚・秩序がありました。そこには A の絶対的権利はありません。

京都府の山間地域では、つい近年まで、マツタケ採取権の入札が盛んに行われてきましたが、その背景に上記のような感覚・秩序が潜んでいます。多くの場合、集落がマツタケ採取権の入札を取り仕切りますが、なかでも、集落の共有林のみならず個人有林も入札の対象とする集落が多々あります。この場合、マツタケ山を所有する人は、立木について権利はあっても、マツタケに関しては落札に成功しなければ採取権はありません。個人有の山林にも、村人誰もが潜在的に同等のマツタケへのアクセス権を持っているのです。さらに、落札金は集落全体の利益となるような事業の財源とされます。こうしてみると、個人有林は集落みんなのものでもあったわけです。ここには私有と共有の、いわば二重の所有関係があります。

一見これは古臭く不合理にも思える仕組みですが、今後の森林利用・管理を考える上で学べき点があると考えています。森林は林産物生産機能だけでなく、いわゆる公益的機能など森林環境そのものが果たす役割が広く認知されるにいたった昨今、所有者以外の利益も考慮した複層的所有関係をいかに構築するかが、現代的課題と言えるでしょう。

参考：SAITO, H. and G. Mitsumata, Bidding Customs and Habitat Improvement for Matsutake (*Tricholoma matsutake*) in Japan. *Economic Botany*. (in press)

## 科学の森ニュース (UT University Forests News)

第 43 号 (No.43)

発行日 平成 20 年 9 月 10 日

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

発行人 下村彰男

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

編集人 石橋整司

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2008@uf.a.u-tokyo.ac.jp